

<p><b>【教育目標】</b> 一人一人の障がいの程度と発達段階に応じた教育を行い、障がいによる様々な困難を克服するために必要な知識、技能、態度を養い、心豊かに明るく、社会で自立し、たくましく生き抜くことができる幼児児童生徒を育成する。</p> <p><b>【学校経営ビジョン】</b> 幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて、何事にも前向きに捉え失敗を恐れずに挑戦し、自ら考え、社会でたくましく生き抜く力の育成を目指し、きめ細やかな教育活動を実践し、保護者や地域から信頼される開かれた学校づくりを進める。 ～自分の手で触り、自分の耳で聴き、自分の心で感じ、自分の頭で考える～ <b>【社会の一員として、人と関わりながらたくましく生きていくために育成したい力】</b> ①コミュニケーション能力 ②思考力 ③自己決定力 ④体力 ⑤感謝する心</p>				
<p><b>【評価基準】</b> 4：期待以上である 3：ほぼ期待どおりである 2：やや期待を下回る 1：改善を要する</p>				
重点目標及び努力事項	学校職員 (平均値)	保護者 (平均値)	学校評議員 (平均値)	学校評議員の意見
<p>目標1 幼・小・中・高・寄宿舎までの一貫した教育の推進</p> <p>ア 一人一人の実態に応じた根拠に基づく幼・小・中・高一貫した教育課程の充実を図る。</p> <p>イ 発達段階に応じた幼・小・中・高・寄宿舎一貫したキャリア教育を推進する。 ・キャリア教育の視点を取り入れた体験学習、実習等の教育活動の実践</p> <p>ウ 自立した生活に向けての寄宿舎生活の充実を図る。 ・基本的生活習慣を確立し、世代を超えた交流の中で社会性や自立心の伸長を図る。</p>	<p>2.6</p> <p>2.5</p> <p>2.9</p>	<p>3.2</p>	<p>3.7</p>	<p>・コロナ禍で制限を強いられる中、様々な工夫を施した取り組みがなされていることが確認できた。課題の一つである就労については関係各方面へアプローチされており、厳しい状況の中はあるが、政府の経済対策とも相まって改善を期待したい。</p> <p>また、地域社会とのつながりも重点事項の一つとして実践されていることは、社会性を身に付け、卒業後に社会の一員として自立して生活ができる経験となると思った。</p> <p>・進路の多様化に伴う専門的知識の修得や、社会に向けた自立のための施策など、課題はありますが、真剣に取り組んでいることを感じました。</p> <p>・ICTの活用も年々活発になっている様子であり、感銘を受けました。</p> <p>・文化祭を見させていただき、幼児から理療科の成人の方までが、この学校で一緒に学んでいることを実感しました。これは年少の子たちにとってはお兄さんやお姉さんがいるのと一緒に、行事などを通じて手本を知り、次の自分の目標を決めることができるのでは、と感じました。この一貫教育という特色を大いに生かして子供たちを伸ばしていただければと思っております。</p> <p>社会環境の変化や価値観の多様化などに伴い生徒の進学・就職についてはこれまで以上に課題も多いのかなと感じました。</p>
<p>目標2 視覚障がい教育としての専門性・専門的指導力の向上</p> <p>ア 職員一人一人の視覚障がい教育の専門性を向上し、質の高い「授業力」を目指す。 ・職員の点字力の向上</p> <p>イ 個々の実態に合ったICT機器を全学部・寄宿舎で積極的に活用し、教育及び生活の充実を図る。 ・情報収集能力の向上、生涯に渡る学習や生活の基盤づくりにつながる。 ・合理的配慮の視点において、教育的ニーズに合わせた適切な教材を活用することで視覚に関する様々な困難を取り除くことができる（タブレット 拡大機能 読み上げソフト スクリーンリーダー 検索ソフト等） ・個別最適な学びの実現につながる。</p> <p>ウ 自立活動の充実を図る。 ・個別の指導計画に基づいた盲教育（触察・点字・ADL）、弱視教育（弱視レンズ活用指導・ADL）、歩行指導、視覚支援 ICT 機器操作、SST 等</p> <p>エ 外部の専門の人材や他県の盲学校と連携及び協働した教育の充実を図る。 ・歩行訓練士、視能訓練士と連携した指導の充実 ・千葉県立盲学校、横浜市立盲特別支援学校、点字図書館等と連携した図書館教育の充実</p> <p>オ 組織的な研修・研究の充実を図る。 ・校内研究、校内研修（基本・応用・伝達）、全体研修（視障部会・教材教具展示会）の充実</p>	<p>2.6</p> <p>2.6</p> <p>2.6</p> <p>2.8</p> <p>2.7</p>	<p>3.2</p>	<p>3.3</p>	<p>・文化祭を見させていただき、幼児から理療科の成人の方までが、この学校で一緒に学んでいることを実感しました。これは年少の子たちにとってはお兄さんやお姉さんがいるのと一緒に、行事などを通じて手本を知り、次の自分の目標を決めることができるのでは、と感じました。この一貫教育という特色を大いに生かして子供たちを伸ばしていただければと思っております。</p> <p>社会環境の変化や価値観の多様化などに伴い生徒の進学・就職についてはこれまで以上に課題も多いのかなと感じました。</p>

目標3 進路指導の充実				<p>・寄宿舎を含む各学部共通の事項としてコロナ感染症対策とICT活用の推進がある。政府が推進するデジタル社会への実現に例を見るまでもなく、ICT活用は、更なる重要性を持つといえる。その意味でもICTの積極的な取り組みに感心した。情報化の課題として、特に視覚障がい児・者の場合は、健常者や他の種別の障がい者と比較するとデジタルデバイスが生じやすい傾向にあると言える。煩雑な作業と準備が必要となるが、全盲～ロービジョンという見え方の様々な特性と個々人のデジタルスキルに合わせた、きめ細やかな指導で更なる成果を期待する。</p> <p>・各学部、学科等のご説明を伺いましたが、皆様コロナ禍で厳しい中、いろいろと努力・工夫をされながら効果を上げていらっしゃるのことが分かりました。ありがとうございました。</p> <p>・幼児児童生徒の自立やコミュニケーションなど、先生方がそれぞれの学年での課題を抽出して取り組む様子を感じることができました。</p>
ア 一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導を展開する。	2.4	3.1	3.0	
イ 職場体験学習、現場実習及び施設等見学の充実を図る。	2.7			
ウ 大学入学試験及びあはき師国家試験の合格に向けて積極的に支援する。	2.9			
エ 福祉事業所等との連携並びに進路開拓を推進する。 ・ヘルスキーパー等の職域開拓	2.4			
オ 卒業生のフォローアップに努める。 ・理療科における研修相談コースの充実	2.3			
目標4 安心・安全な学校生活の保障				
ア 新型コロナウイルス感染症対策等、様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図る。	2.7	3.3	3.7	
イ 計画的な防災・避難訓練、防災教育を強化する。	2.9			
ウ 教育活動全般における安全な教育環境に係る安全点検を徹底し、改善に努める。	2.9			
目標5 地域社会とつながる学校の推進				
ア 医療・福祉・教育・労働等の関係機関と連携した教育活動を推進する。 ・宮崎大学医学部附属病院眼科、視覚障害者センター、点字図書館、小林こすもす支援学校、広島大学、宮崎市発達支援センターすびか、高原保育所、住吉南保育園、他県の盲学校等	2.7	3.2	3.7	
イ 交流及び共同学習の充実を図る。 ・学校間及び居住地校交流の充実 ・九州地区盲学校との交流の充実（九盲体育大会・九盲弁論大会・九盲音楽大会）	2.9			
ウ 宮崎県内の視覚障がい教育におけるセンター的機能を強化する。 ・県内唯一の視覚障がい教育支援学校として教育相談や巡回相談、研修支援の充実 ・学校啓発の取組と情報発信の充実（あいあい教室・愛EYEひなた・サテライト相談・福祉機器展） ・弱視特別支援学級（大王谷学園中等部）への支援と連携	2.7			
目標6 教職員の働き方の改善				
ア 各会議のスリム化と効率的な運営方法の工夫に努める。	2.4		3.3	
イ 職員間のサポート体制を構築（校内のOJT・メンター制）する。	2.6			

令和4年度 学校自己評価アンケート（学校職員用）

校内の教職員に対して調査を行ったところ、以下のような結果でした。  
 ※ 評価区分（A：期待以上 B：ほぼ期待どおり C：やや期待を下回る D：改善を要する）

<b>目標1 幼・小・中・高・寄宿舍までの一貫した教育の推進</b>	A	B	C	D
ア 一人一人の実態に応じた根拠に基づく幼・小・中・高一貫した教育課程の充実を図る。	0%	67%	25%	6%
イ 発達段階に応じた幼・小・中・高・寄宿舍一貫したキャリア教育を推進する。	0%	57%	38%	4%
ウ 自立した生活に向けての寄宿舍生活の充実を図る。	0%	85%	15%	0%
<b>目標2 視覚障がい教育としての専門性・専門的指導力の向上</b>	A	B	C	D
ア 職員一人一人の視覚障がい教育の専門性を向上し、質の高い「授業力」を目指す。	0%	66%	33%	0%
イ 個々の実態に合ったICT機器を全学部・寄宿舍で積極的に活用し、教育及び生活の充実を図る。	2%	60%	30%	7%
ウ 自立活動の充実を図る。	0%	65%	27%	6%
エ 外部の専門的な人材や関係機関と連携及び協働した教育の充実を図る。	2%	75%	23%	0%
オ 組織的な研修・研究の充実を図る。	0%	70%	27%	2%
<b>目標3 進路指導の充実</b>	A	B	C	D
ア 一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導を展開する。	0%	54%	32%	13%
イ 職場体験学習、現場実習及び施設等見学の充実を図る。	5%	68%	22%	2%
ウ 大学入学試験及びあはき師国家試験の合格に向けて積極的に支援する。	8%	71%	20%	0%
エ 福祉事業所等との連携並びに進路開拓を推進する。	0%	52%	35%	11%
オ 卒業生のフォローアップに努める。	0%	54%	25%	19%
<b>目標4 安心・安全な学校生活の保障</b>	A	B	C	D
ア 新型コロナウイルス感染症対策等、様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図る。	4%	68%	22%	4%
イ 計画的な防災・避難訓練、防災教育を強化する。	0%	88%	11%	0%
ウ 教育活動全般における安全な教育環境に係る安全点検を徹底し、改善に努める。	0%	90%	9%	0%
<b>目標5 地域社会とつながる学校の推進</b>	A	B	C	D
ア 医療・福祉・教育・労働等の関係機関と連携した教育活動を推進する。	2%	71%	26%	0%
イ 交流及び共同学習の充実を図る。	5%	81%	10%	2%
ウ 宮崎県内の視覚障がい教育におけるセンター的機能を強化する。	2%	75%	18%	2%
<b>目標6 教職員の働き方の改善</b>	A	B	C	D
ア 各会議のスリム化と効率的な運営方法の工夫に努める。	2%	47%	40%	9%
イ 職員間のサポート体制を構築（校内のOJT・メンター制）する。	0%	60%	35%	5%

## 令和4年度 保護者用評価結果

保護者全員に対してアンケート調査を実施したところ、以下のような結果でした。

※ 評価区分（④期待以上である ③ほぼ期待どおりである ②やや期待を下回る ①改善を要する）

項 目	④	③	②	①
<b>目標1 幼・小・中・高・寄宿舍までの一貫した教育の推進</b>				
1 一人一人の実態や発達段階に応じた、幼・小・中・高・寄宿舍を通した一貫した教育を充実・推進している。	41.2%	52.9%	5.9%	0%
2 キャリア教育の視点を取り入れた体験学習、実習等の教育活動を実践している。	23.5%	64.7%	11.8%	0%
<b>目標2 視覚障がい教育としての専門性・専門的指導力の向上</b>				
3 教職員が視覚障がい教育の専門性をもち、質の高い授業を行っている。	41.2%	47.1%	5.9%	5.9%
4 教職員が幼児児童生徒の実態に合った適切な教材やICT機器を活用している。	29.4%	64.7%	0%	5.9%
<b>目標3 進路指導の充実</b>				
5 一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導を行っている。	29.4%	47.1%	17.6%	5.9%
6 職場体験学習や現場実習及び施設等見学の充実を図っている。	29.4%	52.9%	17.6%	0%
<b>目標4 安心・安全な学校生活の保障</b>				
7 新型コロナウイルス感染症対策等、様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図っている。	35.3%	47.1%	11.8%	5.9%
8 計画的な防災・避難訓練、防災教育を行っている。	47.1%	47.1%	5.9%	0%
<b>目標5 地域社会とつながる学校の推進</b>				
9 医療・福祉・教育・労働等の関係機関と連携した教育活動を行っている。	23.5%	64.7%	11.8%	0%
10 小中高等学校との学校間交流、居住地校との交流、九州地区盲学校との交流を充実させている。	23.5%	76.5%	0%	0%

# 令和4年度学校評議員評価表

## 評価基準

期待以上である	ほぼ期待どおりである	やや期待を下回る	改善を要する
4	3	2	1

## 令和4年度の教育活動について

	評議員1	評議員2	評議員3
目標1 幼・小・中・高・寄宿舍までの一貫した教育の推進	4	4	3
目標2 視覚障がい教育としての専門性・専門的指導力の向上	3	4	3
目標3 進路指導の充実	3	4	2
目標4 安心・安全な学校生活の保障	4	4	3
目標5 地域社会とつながる学校の推進	4	4	3
目標6 教職員の働き方の改善	3	4	3

### 意見・感想等

・文化祭を見させていただき、幼児から理療科の成人の方までが、この学校で一緒に学んでいることを実感しました。これは年少の子たちにとってはお兄さんやお姉さんがいるのと一緒に、行事などを通じて手本を知り、次の自分の目標を決めることができるのでは、と感じました。この一貫教育という特色を大いに生かして子供たちを伸ばしていただければと思っております。

社会環境の変化や価値観の多様化などに伴い生徒の進学・就職についてはこれまで以上に課題も多いのかなと感じました。

・コロナ禍で制限を強いられる中、様々な工夫を施した取り組みがなされていることが確認できた。課題の一つである就労については関係各方面へアプローチされており、厳しい状況の中ではあるが、政府の経済対策とも相まって改善を期待したい。

また、地域社会とのつながりも重点事項の一つとして実践されていることは、社会性を身に付け、卒業後に社会の一員として自立して生活ができる経験となると思った。

・進路の多様化に伴う専門的知識の修得や、社会に向けた自立のための施策など、課題はありますが、真剣に取り組んでいることを感じました。

・ICTの活用も年々活発になっている様子であり、感銘を受けました。

## 学部の取組（幼小小学部・中学部・普通科・専攻科・寄宿舍）

評議員1	評議員2	評議員3
4	4	3

### 意見・感想等

・各学部、学科等のご説明を伺いましたが、皆様コロナ禍で厳しい中、いろいろと努力・工夫をされながら効果を上げていらっしゃるのことが分かりました。ありがとうございました。

・寄宿舍を含む各学部共通の事項としてコロナ感染症対策とICT活用の推進がある。政府が推進するデジタル社会への実現に例を見るまでもなく、ICT活用は、更なる重要性を持つといえる。その意味でもICTの積極的な取り組みに感心した。情報化の課題として、特に視覚障がい児・者の場合は、健常者や他の種別の障がい者と比較するとデジタルデバイドが生じやすい傾向にあると言える。煩雑な作業と準備が必要となるが、全盲～ロービジョンという見え方の様々な特性と個々人のデジタルスキルに合わせた、きめ細やかな指導で更なる成果を期待する。

・幼児児童生徒の自立やコミュニケーションなど、先生方がそれぞれの学年での課題を抽出して取り組む様子を感じることができました。